

平成30年度において国の地方創生関連交付金を活用して実施した事業の効果検証 ～国の基準による効果検証～(案)

資料4

No.	総合戦略における施策分野	交付対象事業の名称	取組内容	交付金の種類(補助率)	実績額(事業費) 単位:円 ※連携事業の場合は本市分の事業費	本事業における重要業績評価指標(KPI)					実績値	今後の方針
						指標	指標値	単位	目標年月			
1	I-4 ③	がいな創生新事業展開支援事業	市内企業にプロフェッショナル人材のニーズがあり、人材確保に資するとして、地方創生推進交付金を活用し、「がいな創生新事業展開支援事業補助金」を創設したが、市内企業の考えと本施策の目的(企業の経営革新や新事業創出の促進、またその効果を地域の他企業に波及させ、地域を牽引する企業を育成する)に乖離があり、実績がないまま平成30年度をもって事業期間が終了した。	①地方創生推進交付金(1/2)	-	指標①	当該補助事業の活用により創出されたエネルギー分野又は医療機器・バイオ分野の新事業の数	H30年度において6 ※各年度2事業	事業	H31.3	0	/
						指標②	当該補助事業の活用により創出されたエネルギー分野又は医療機器・バイオ分野の雇用数	H30年度において12 ※各年度4人	人	H31.3	0	
						指標③	地域外の専門人材のUIターン数	H30年度において6 ※各年度2人	人	H31.3	0	
2	Ⅲ-6 ③	二市連携ICT活用保育事業	岐阜県美濃加茂市と連携して保育版状態把握システムの具体的利用可能性や評価指標を構築するための実証事業を行った。また、保育版状態把握プログラムの普及展開のため、実施園及び公立保育所保育士対象に大学教授による講演を行った。	①地方創生推進交付金(1/2)	3,103,000	指標①	待機児童の減少数	H31年度において30 ※H30目標:15人	人	R2.3	美濃加茂市:-6 米子市:-15	引き続き、美濃加茂市と連携して、保育の質の向上、保育士の負担軽減などに取り組むこととしている。
3	Ⅳ-1 ②-D	名峰「大山」とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト	鳥取県と鳥取県西部圏域市町村で策定した地域再生計画(名峰「大山」とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト)が国から認定された。平成30年度は、当該計画に基づき、地方創生推進交付金を活用して、下記の事業を実施した。 ●大山講座 ●大山山麓の謎解き宝探し ●米子城ライトアップ ●皆生・大山SEA TO SUMMIT 環境シンポジウム ●「大山を詠む」俳句コンテスト ●皆生温泉まちあるき魅力増進事業 ●「大山山麓の至宝」(刀剣展) ●刀剣・たたら関連イベント ●1300年祭記念野外ライブ	①地方創生推進交付金(1/2)	43,882,722	指標①	観光入込客数(年間)	R2年度において11,140,000 ※H30目標:10,720,000人	人	R3.3	7月公表予定	引き続き、認定された地域再生計画「名峰「大山」とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト」に基づき、地方創生推進交付金を活用して取り組むこととしている。
						指標②	外国人宿泊者数(年間)	R2年度において394,330 ※H30目標:126,702人	人	R3.3	未公表	
4	Ⅳ-2 ④	中海・宍道湖・大山圏域ブランド化推進プロジェクト	継続して外国人観光客受入環境整備(観光案内所をはじめ業種別の各連絡会の開催、各種パンフレットの作成等)を実施した。WEBプロモーション等、海外向けの情報発信を行った。観光客誘致事業を機動的に展開することを目的として、平成29年度に設立した圏域DMO「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」を改組し法人化した(平成31年2月12日設立総会、4月1日法人登記)。人口集中地域である三大都市圏(首都圏・中京圏・関西圏)等をターゲットとして観光プロモーションを実施した。	①地方創生推進交付金(1/2)	6,000,000	指標①	圏域への観光客入込数	R2年度において40,700千人 ※H30目標:35,815千人	人	R3.3	7月から8月に公表	引き続き、認定された地域再生計画「中海・宍道湖・大山圏域ブランド化推進プロジェクト」に基づき、地方創生推進交付金を活用して取り組むこととしている。
						指標②	圏域での外国人宿泊客数	R2年度において123,000 ※H30目標:107,894人	人	R3.3	7月から8月に公表	
						指標③	山陰いいものマルシェ来場者数《累計》 ※H27(45,000人)からの累計	H29年度において150,000人	人	R3.3	101,000	
5	Ⅳ-2 ⑦	中海・宍道湖・大山圏域のローカルToグローバルイノベーション	医療機関のニーズと企業が持つ技術とのマッチング、また医療機器の開発事業化への助言などを一体的に行うことを目的として、医工連携コンシェルジュを設置した。講演会・セミナー等を実施したほか、ニーズ・シーズ調査、医療機器開発支援及びデータベースの構築を行った。	①地方創生推進交付金(1/2)	5,700,000	指標①	圏域内企業等の優れた技術を活かした医療機器等の実用化件数 ※H30からの目標設定	R2年度において6 ※各年度2件	件	R3.3	※H30:0件	引き続き、認定された地域再生計画「中海・宍道湖・大山圏域のローカルToグローバルイノベーション」に基づき、地方創生推進交付金を活用して取り組むこととしている。
						指標②	入口・開発・出口の各支援事業(仮称)の相談件数 ※H29からの目標設定	R2年度において400 ※各年度100件	件	R3.3	※H30:101件	
						指標③	入口支援事業(仮称)により研究事業へのマッチング成立件数 ※H29からの目標設定	R2年度において20 ※各年度5件	件	R3.3	※H30:12件	

No.	総合戦略における施策分野	交付対象事業の名称	取組内容	交付金の種類(補助率)	実績額(事業費) 単位:円 ※連携事業の場合は本市分の事業費	本事業における重要業績評価指標(KPI)					実績値	今後の方針
						指標	指標値	単位	目標年月			
6	IV-1 ②-D	山陰のド真ん中！皆生温泉圏域観光拠点整備事業	皆生温泉のランドマークとして、新たな観光客誘客や地元の市民の利用の向上などを目的に、米子市観光センターの改修工事を行った。(平成29年度実施) ＜改修の概要＞ ○誰もが利用しやすいよう、エレベーターを新設し、1階、2階のトイレを和式から洋式に改修。 ○宿泊客や地元住民の利用向上を図るため、2階の多目的ホールについて、防音のためサッシ交換、照明設備を改修。 ○老朽化した電気設備を改修し、館内を明るくしてイメージアップを図った。	②地方創生拠点整備交付金(1/2)	-	指標①	米子市観光センターの利用者数	R2年度年度において116,000 ※H30目標:110,000	人	R3.3	99,020	観光センターを圏域の観光拠点として活用するほか、集客性のあるイベント実施や、ギャラリーの集客向上のほか、施設利用のPRを強化するなど、利用者増とにぎわいの創出を図ることとしている。
						指標②	米子市観光センターの総売上高	R2年度において50,000 ※H30目標:30,000	千円	R3.3	10,457	
7	IV-2 ③	中海・宍道湖大山圏域インド人材確保・企業連携推進事業	事業実施主体である圏域内産学官連携の実行委員会を立ち上げた(平成30年6月4日設立、第1回実行委員会開催)。 インドから留学生を招聘し、圏域内IT企業等におけるインターンシップを実施し、また日本人の日本語教師をコチ理工科大学に配置、大学等で日本語教育を実施した。 インドIT人材等を雇用するに当たっての課題等を明らかにするため、生活面の配慮、環境整備、研修体制を調査した。	①地方創生推進交付金(1/2)	1,538,777	指標①	インドIT等人材の圏域内企業への就職者数	R2年度において23 ※H30目標:3人	人	R3.3	5 ※H30:5人	引き続き、認定された地域再生計画中海・宍道湖・大山圏域インド人材確保・企業連携推進事業計画』に基づき、地方創生推進交付金を活用して取り組むこととしている。
						指標②	日印間業務提携企業数	R2年度において4 ※H30目標:1社	社	R3.3	1 ※H30:1社	
						指標③	インド人留学生インターンシップ受入れ人数	R2年度において42 ※H30目標:14人	人	R3.3	14 ※H30:14人	
8	II-8 ①	山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト	米子の夜の魅力向上を図るため、「ナイト・デスティネーション in Yonago」として以下の事業を行った。 ・「皆生温泉・四条通り 紋様灯籠」として、平成30年11月3日から18日まで、皆生温泉・四条通り(米子市観光センターから海岸側の終着点である有本翁像間)で、写真スポットとなるような大・小の紋様灯籠の設置や松林のライトアップを行った。 ・「米子城跡ライトアップ2018秋の陣」として、平成30年11月1日から18日まで、米子城跡(天守台と四重櫓、二の丸高石垣)のライトアップを行った。あわせてガイドツアーを実施し、見どころスポットの紹介等を行った。	①地方創生推進交付金(1/2)	4,998,179	指標①	外国人観光宿泊客数	R2年度において152,000 ※H30目標:122,000人	人	R3.3	鳥取県と島根県の観光動態調査(7月公表予定)	引き続き、松江市、出雲市、境港市と連携し、一体となった観光PRやインバウンド対策を推進する。
						指標②	外国人観光客消費額単価	R2年度において175,653 ※H30目標:140,653円	円	R3.3	131,241	
						指標③	外国人観光客の満足度	R2年度において70 ※H30目標:50%	%	R3.3	-	
						指標④	実施したインバウンド対応メニューのうち満足度が8割以上のものの数	R2年度において28 ※H30目標:3本	本	R3.3	-	

【凡例】

1) 交付金の種類

- ① 地方創生推進交付金:「地方版総合戦略」に定められた自主的・主体的で先導的な事業を記載して作成した地域再生計画に基づく事業の実施を支援すること目的とする交付金(補助率1/2)。平成28年度から複数年の支援。
- ② 地方創生拠点整備交付金:地方版総合戦略に基づく自主的・主体的な地域拠点づくりなどの事業のうち、未来への投資の実現につながる先導的な施設整備を支援すること目的とする交付金(補助率1/2)。

2) 事業効果の選択肢(前年度の国の基準)

- ① 地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなどの場合)
- ② 地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの相当程度(7割~8割)達成したなどの場合)
- ③ 地方創生に効果があった(目標値を上回ることはなかったものの事業開始前よりも改善したなどの場合)
- ④ 地方創生に効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合)